

論語に学ぶ安全衛生管理

論語は、中国の春秋時代（二千数百年前）を生きた孔子と彼の高弟の言行を弟子達が記録した書物です。短い文章なので前後関係がはっきりわからないものも多く、注釈なしには読めませんが、様々に解釈できるところが、また魅力です。

日本でも、江戸時代は寺子屋で学ばれていくくらいですから、現代人でも気軽に気楽に読むことができます。

「子曰(しのたまわ)く、学んで時にこれを習う。亦(また)説(よろこ)ばしからずや・・・」

など、一度は耳にしたことがあるでしょう。このように学問や修養に関する記述が多いのも事実ですが、それらの言葉を現代の安全衛生管理に置き換えてみても、意味深いものがあります。なぜなら、学び続けること、ものごとの根本こそ大切であるというのが、論語の重要なテーマであるからです。

ここでは、特に安全管理者など事業場において働く人の健康と命を守るために日夜奮闘している皆様に、活動の道標になるような言葉を選び、多少、強引な解釈を付してお届けしたいと思います。

その1

子曰、學而不思則罔、思而不學則殆 （為政編）

子曰く、学びて思わざれば則ち罔（くら）く、思いて学ばざれば則ち殆（あやう）し

（現代語訳）

先生（孔子）がおっしゃった。視たり、聴いたりして他から学んだことを、自分なりに思考しなかったなら、道理にくらいものになってしまう。逆に他から学ぶことをせず、ただ自分だけで思考するならば、独善におちいる危険性がある。

（安全管理者のための超約）

安全管理を災害事例に学ぶことは重要です。わが社でも同じような災害が起きないか、それを考えることはもっと大切です。皆さんは、災害事例の報告があるたび、報告書を回覧するだけで済ませてはいませんか。うちでは、そのような事故は起きっこない、と高をくくったりしていませんか。

例えばこんな事例がありました。

——ロッカーを移動中、ガラス戸が滑って枠との間に指を挟んだ。——

大抵の人はこんなことは経験済みです。でも何故、移動中にガラス戸固定していなかったのでしょうか。鍵をかけるとか、テープで固定するとか。何事も段取りが大事です。たった一、二分でいいから、行動する前に危険を予測するクセを付けましょう。

どうですか。こんな災害事例でも安全管理の参考になるでしょう。災害事例はとても貴重

な情報です。本当に大丈夫だろうか、何度も繰り返して同じような危険がないか、考えてみましょう。

「他山の石」という言葉をご存じでしょう。中国の「詩経」にある故事に由来する言葉で、「よその山から出た粗悪な石も自分の宝石を磨くのに利用できる」ことから、「他人のつまらぬ言行も自分の人格を育てる助けとなる」という意味で使われています。取るに足らない出来事（災害）でも、それを参考にしてよく考えればとても役に立つものです。

（次回に続く）

その2

子曰、三人行、必有我師焉、択其善者而従之、其不善者而改之（述而篇）

子曰く、三人行えば、必ず我師あり。その善者を択（えら）びてこれに従い、その不善なる者にしてこれを改（あらた）む

（現代語訳）

先生（孔子）がおっしゃった。三人で何か行えば、自分が何かを行う上での師となる人を見つけることができる。良い行いをする人がいればそれを見習い、また悪い行いをする人がいればそれを悪い手本として自らを省みて改めることができる。

（安全管理者のための超約）

まさに三人寄れば文殊の知恵です。部下であろうと年下であろうと、誰でもが自分と違う感性を持ち、または経験を有しています。

そうした違いを理解しあうのが KYT（危険予知訓練）です。労働災害を防止するには、事故を起こして後悔する前に、職場の皆で話し合っ、危険を予知して「安全衛生を先取り」することが重要であることはご存じですね。一人で一生懸命に考えてみても、見逃してしまう危険因子があつたりします。三、四人が集まって、いろいろと話をしながら、考えを出していけば、ひとりでは気づかなかつたことにも気づくことができます。

KYT では、「かもしれない」と気づいた箇所は全て危険因子として正解です。

——段差でつまずいて転んだ際、持っていた鋭利なナイフが刺さって命を落とす——

そんなバカなって思う方もいるかもしれませんが、ケガをする時なんて案外そんなものです。私は、若い植木職人が剪定ばさみを手に持ったままトラックの荷台から飛び降りて転倒、持っていた剪定ばさみを腹部に突き刺して死亡した事故を知っています。

経験や年齢などによっても出てくる意見は様々だと思います。時々、目からウロコの意見が出ることもあります。そして、気づきの数だけ改善ネタにもなります。

ケガや事故などの災害は些細な事で起こります。危険のポイントや行動目標を声に出して意識する。たったそれだけですが注意力が強化されます。

要は、「ボーッと生きてんじゃねーよ（作業しているんじゃねーよ）！」っていうこと。

（次回に続く）